

科目区分	基礎科目	科目名	生活と音楽		科目コード	20Y030	担当者	中澤 伸元			
対象学生	幼児教育学科 1年生		学期区分	後期	単位数	2	担当形態	単独			
			授業区分	講義							
科目			施行規則に定める科目区分又は事項等			卒業要件	必修				
						免許・資格要件					
科目の主題						学修成果との関連（大◎、中○、小△）					
社会人として必要な、音楽の理解力を一般教養として身に付ける。 音楽の基礎、楽典、音楽の必要性について学ぶ。 歌うこととハーモニー訓練。						1. 「良心」 誠実な人柄と 人間力	2. 「創造」 高度な知性と 創造力	3. 「実践」 明確な意思と 実践力			
科目の到達目標						① 誠実性・真摯性	② 多様性・協働性	③ 知識・技能	④ 表現力・創造力	⑤ 実行力・自立性	⑥ 就業力・貢献力
1.	一般教養としての楽典などの音楽知識 楽譜の理解と興味関心を高める										
2.	声には人柄、知性が含まれている。声は意識次第でどうにでもなる。過去意識現在意識未来意とのつながる感覚を身に付ける。										
3.	生活におけるリズム感覚を学ぶ。拍子2. 3. 4. 6. 9. 12拍子の感覚を身に付ける。										
4.	表現する楽しさと喜び、自分らしさを身に付ける。					○	○	○	○	○	
5.											
授業方法						成績評価の方法と割合					
基礎音楽楽典の理解。表現することの楽しさを身に付ける。拍子の違いを体で体験する。リズムを感覚で感じる。音程の違いを理解し、自分の声で出せるようにする。ある程度理解できたら簡単な曲を作ってみる。意識によって結果が変わることをしっかり認識させる。						臨時試験（70%） 受講態度（30%）					
課題等への対応						授業外学修時間					
試験、課題などはその都度評価し、アドバイスをを行う。						個人の苦手な部分を復習する。（30分程度）					
回数	授業計画					学習課題（予習・復習）					
第1回	生活音楽は、意識、身体、声で幸せにも不幸にもなることの意識を植え付ける。 ボイストレーニング					音楽に対する質疑応答					
第2回	拍子の役割 知っている曲の拍子が変わればどんな感じになるのか？拍子によって表現法が変わる。 ボイストレーニング					拍子感を繰り返し身に付ける					
第3回	リズムの役割 曲のリズムを変えただけでこんなにも変わる。リズムでの感情変化の違いの学び。 ボイストレーニング					リズムの楽しさを知る					
第4回	音程の役割 音程によって心の感情表現が変わることの理解。音程を実際に声に出して学んでいく。 ボイストレーニング					音程の度数表現の研究					
第5回	曲を通して第2・3・4回の授業の理解と実技指導。 ボイストレーニング					苦手な部分を繰り返し練習し身に付ける					
第6回	音楽に必要な楽典、譜表、五線、音符の読み方。 ボイストレーニング					調号、符号、転調についての理解					
第7回	調号、符号、転調について ボイストレーニング					調号、符号、転調についての理解					
第8回	速度、拍子でどう変わる？ 生活のテンポと意識。 ボイストレーニング					拍子、テンポの変化を楽しむ					
第9回	表現することの楽しみ方実践テクニック。 意識(心)+肉体(感覚)+声(行動)=表現 ボイストレーニング					表現することの楽しさを学ぶ					
第10回	イメージ作りの学び。空間にイメージを描く。曲を映像化する。理想未来からの答え表現法 ボイストレーニング					イメージ表現の訓練					
第11回	イントロ拍子当て理解。 いろいろな曲を聴き、何拍子の曲か当てる。 ボイストレーニング					拍子感を身に付ける					
第12回	いろいろなリズムの組み合わせを作り、演奏を聴いて、納得する。 ボイストレーニング					いろんな音楽を聴き、オリジナル曲を作る					
第13回	音程を使い、リズム、拍子を使いオリジナル曲を作る。自分の作品を全員で歌う。 ボイストレーニング					オリジナル曲の改善					
第14回	質疑応答による総合まとめ授業。 ボイストレーニング					音楽レポート提出					
第15回	日常生活に必要な音楽を楽しむ。 ボイストレーニング					音楽授業の内容についての話し合い					
試験	定期試験を実施しない										
教科書	授業中に適宜プリントを配布する。					受講生へのメッセージ 日常生活で無意識に聞いている音楽への理解。基本知識を身に付け、より音楽を自分の生活の中に取り入れ癒され、おおいに楽しみ精神性を養いましょう。					
参考書等	なし										